



明けましておめでとうございます！「一年の計は元旦にあり」といいますが、みなさんは、どんなお正月を過ごしましたか？そして、今年の抱負は決まりましたか？
図書室では、「和」のコーナーを設置し、改めて日本の良さを実感してもらおうと思っています。今年も一年、図書室をよろしくお願ひします！

図書室からお知らせ

冬休み前に借りた本は、冬休み明けの1月10日が返却期限日です。忘れずに返しましょう。まだ読み終わっていない場合は、継続の手続きができます。（予約の入っている本は除く）

また、2年生3年生の中に長期本を借りたままの生徒がいます。3年生は紛失が決まった場合は、弁償となりますので、必ず返却してください。

「和」の本特集 おすすめの本

日本人なら知っておきたい日本のこと。
あなたはどこまで知っていますか？
今回は「和」をテーマに特集をしてみました。

お江戸の片隅、お紅と清次の姉弟ふたりで切り盛りする小さな店、「出雲屋」。鍋、布団と何でも貸し出す店ですが、その品のなかには、百年以上の時を経て妖となった付喪神たちがたくさんいて…。気位高く、退屈をもてあました妖たちが、貸し出された先々で仕入れてくる噂話に耳を傾けながら、お紅は訳あって「蘇芳」という名の香炉を探していました。

畠中 恵 著

「つくもがみ貸します」

時は戦国。忍びの無門は伊賀一の腕を誇るも無類の怠け者。女房のお国に稼ぎのなさをとがめられ、百文のほうび目当てに他家の伊賀者を殺める。このとき、伊賀攻略を狙う織田信雄軍と百地三太夫率いる伊賀忍び軍団との、壮絶な戦の火蓋が切つて落とされた一一。

和田 竜 著

「忍びの国」



和のこころを持つた柴犬しばわんこが、四季折々の「和」の暮らしを楽しく教えてくれる絵本。「何故かしら 和にひかれる 今日この頃でございませす」と言うしばわんこが、まず私たちに教えてくれるのは「和のおもてなし」。おもてなしの第一歩である掃除から始まり、お客様の迎え方、座ぶとんのすすめ方、お茶とお菓子のすすめ方などが紹介されます。

川浦 良枝 著

「しばわんこ和のこころ」

日本には漢語と外来語、そして生粋の日本語「大和言葉」大きくわけてこの三つがあります。
日本人自身が育んできた知的で優雅な余韻を残す言葉づかいを身につけてみませんか？

高橋 こうじ 著

「日本の大和言葉を美しく話す」

